

近況報告

渡辺 光

早いもので、昨年の第9巻に近況報告を書いてから、1年有余になります。本誌も既に第10巻となり、今更乍ら月日の経つことの早さを感じずる次第です。10年前に本誌の刊行をはじめたときの意図はささやかなもので、一つは卒業生と在校生や教室との連絡の機関としての機能を果たすことを目的とし、いま一つには、卒業生の努力の結晶である卒論が徒らに教室に保存されているのみであったのを、もっと広い社会に公開しようという位の程度でありました。然し巻を重ねるにつれて、教室の諸氏や在学生の熱意と、卒業生諸姉の後援に支えられて、次第に充実したものとなり、茲に本巻を送り出すことが出来たことは御同慶の至りであります。

私自身について言えば、その後大した変化はありません。ただ学部長をやめさせて戴き、多少学内での時間的余裕ができました。その代り、教室内で一番年をとっているという理由で、一般教養コースの地理を受け持たされることになりました。そのおかげで、若鮎のようなピチピチした1年生に接することができるのは、何ととっても大きな喜びであります。

学外での公務的業務は相変わらずです。学会協議会員及び地理学研究連絡委員会委員長としての仕事、太平洋科学連合地理学常置委員会の委員長としての仕事などは、その儘続いています。これらにつきましては、非才な私だけの力で務めおうせるものではありませんので、教室の諸先生の御理解と、就中正井先生、貝山さん、岡崎さん、3月までは下瀬(旧高田)さんと二瓶(旧橋本)さん、4月からは林原さんの御協力を得てどうにかやっております。責任をもって手がけている2、3の研究もありますが、これらも教室の諸先生との協同の型、というよりは、全面的に倚りかかっているといった方がよいでせう。おかげで義務は果せさうです。

研究室に松井教授をたずねて

先年号では、先生の研究や日常生活、女子大生についてのご意見を伺いましたので、今回は別の角度から、先生の一面をのぞいてみることにしました。